

教育費の他市との比較 (27年度) まとめ

財源(税金)の使い方、特に教育に十分な財源を充てているかについて、他市と比較しました。

グラフ①東大和は、民生費の割合は多いが、教育費(全体)は多くない。

27年度は、給食センター建設費が大きいいため、他市と比較して遜色のない比率が教育費に充てられているが、これを除くとどうなるか。

例えば、26年度までは10%以下で少ないほうであった。

グラフ②教育費の内容を見ると、小学校の児童一人当たりの学校教育費は、多摩26市で少ないほうの市である。

グラフ③中学校教育費についても、少ないほうである。

グラフ④大人向けの社会教育費は？ これも決して多くない。

今検討中の図書館のあり方についても、市民としてはこれを大切にする方向で取り組みたい。

⑤東大和市は、財政が豊かな方ではない。しかし、不要不急の支出がないとも言えないだろう。いろいろ工夫して、子育て、教育では他に引けを取らない、充実したまちを目指して頂きたい。

注記①市立小中学校の先生の給料は、東京都が支給しているので、ここには含まれない。

注記②学校教育費には、消費的支出、投資的支出(土地費、建築費、設備備品費、図書購入費)、債務償還費がある。今回の他市との比較は、土地費、建築費、債務償還費を除いて比較した。これは、大規模な工事に関わるこれらの経費は年度により大きく変動するので、単年度比較には適さないと考えたためである。